

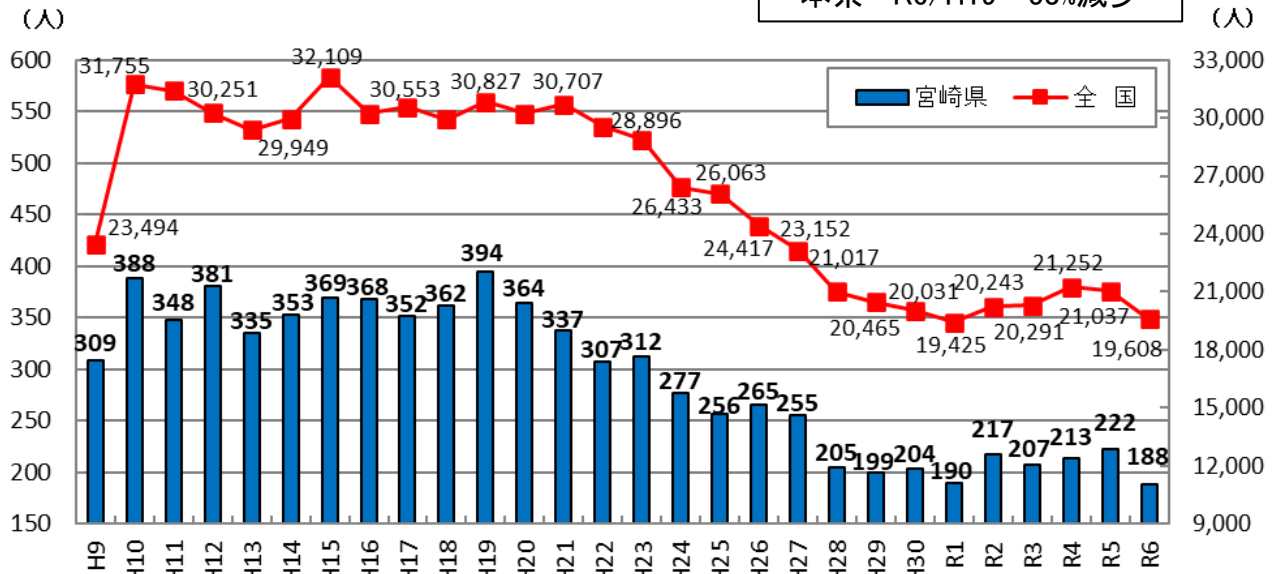
令和6年自殺の現状等について

①自殺者数について

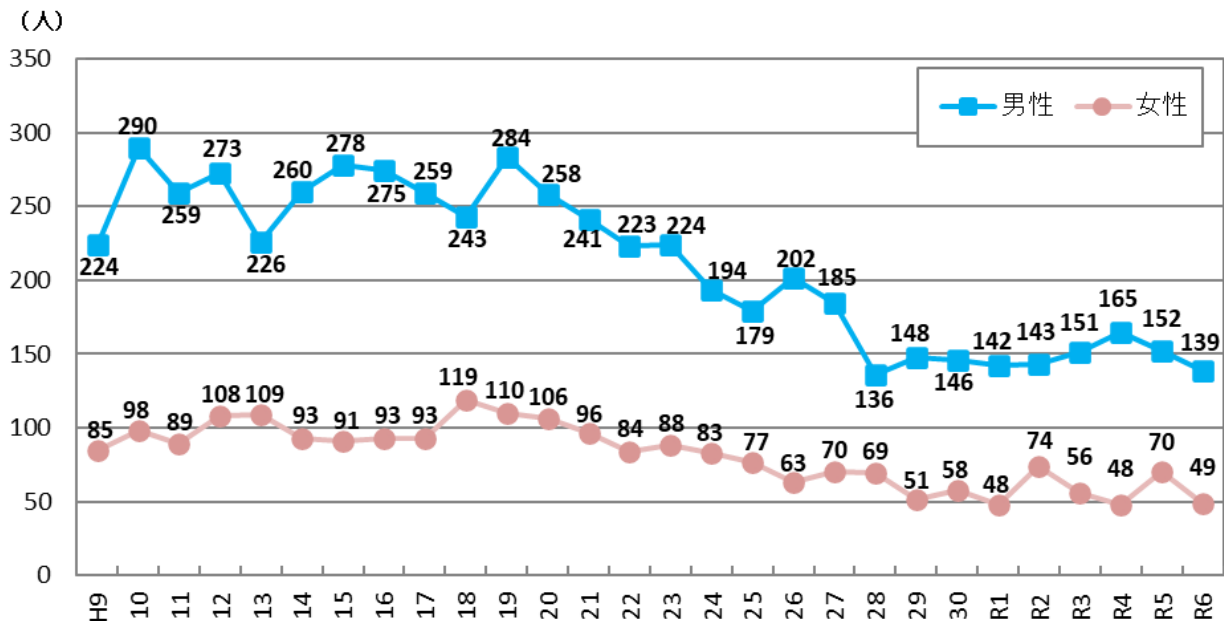
- 本県の自殺者数は188人であり、令和5年と比べて、34人減少した。
- 男性の自殺者数は139人であり、前年比13人の減少、
- 女性の自殺者数は 49人であり、前年比21人の減少となった。
- また、男性の自殺者数は女性の自殺者数の約3倍となっている。

■全国と本県の自殺者数の推移(平成9～令和6年)

※ピークからの減少率
 全国 R6/H15 39%減少
 本県 R6/H19 53%減少



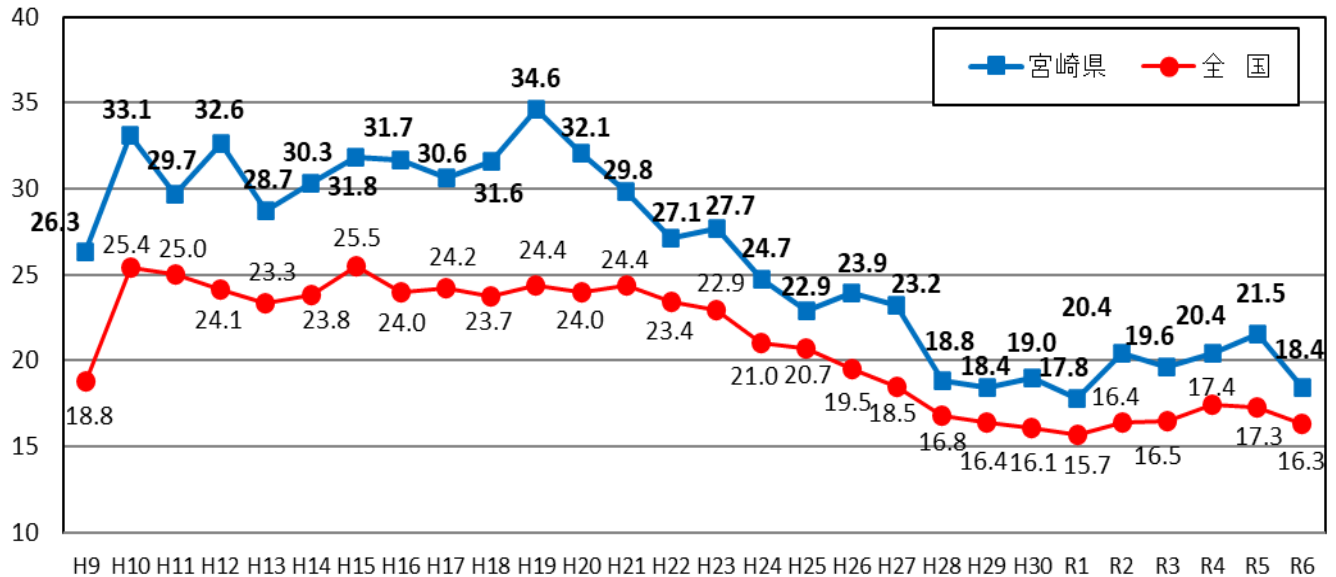
■本県の男女別自殺者数の推移(平成9～令和6年)



②自殺死亡率について

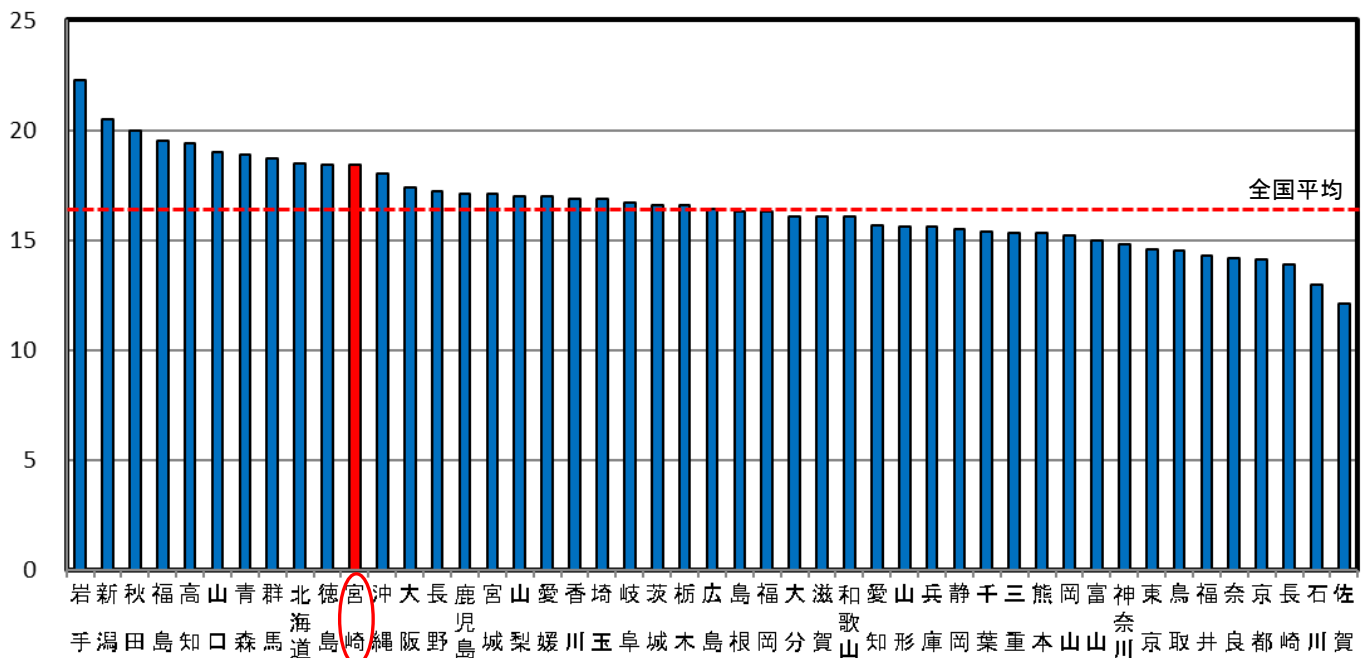
- 本県の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)は、全国平均を一貫して上回っており、令和6年は18.4(前年比3.1減)となっている。
- 都道府県別で比較すると、本県は全国で11番目(九州では1番目)に高い。
(R5:2番目、R4:3番目)

■全国と本県の自殺死亡率の推移(平成9年～令和6年)



■都道府県別の自殺死亡率の比較(令和6年)

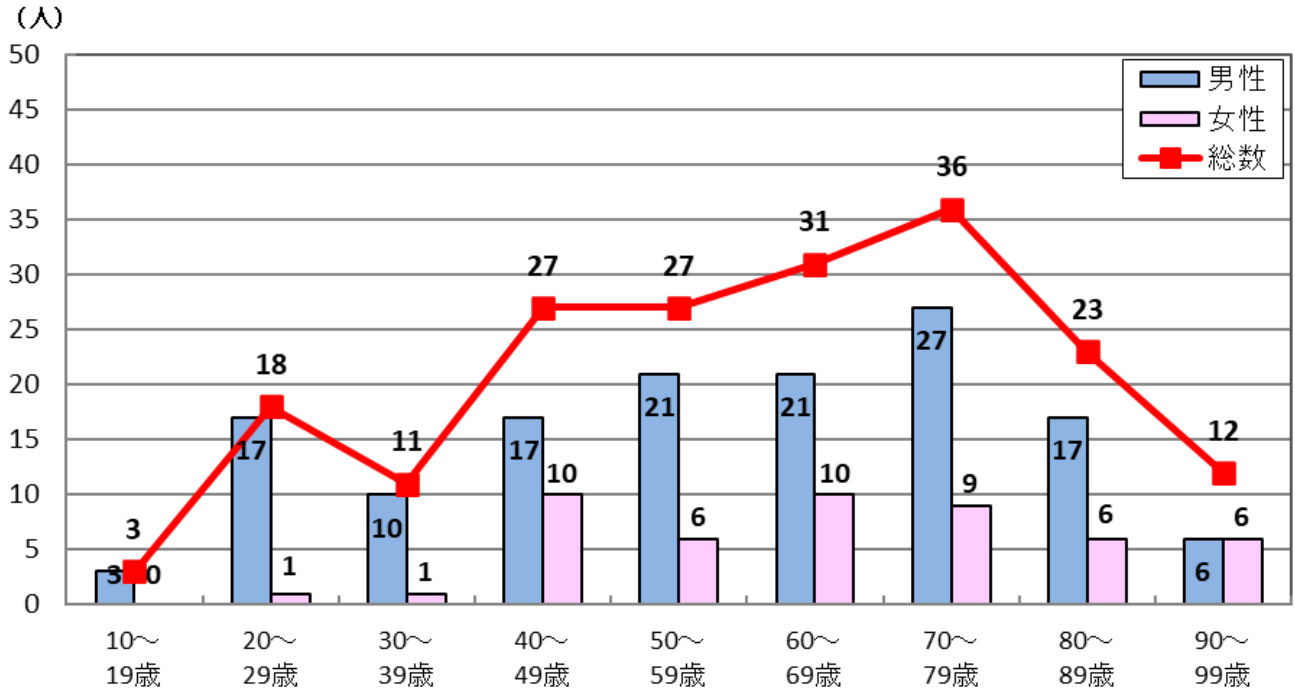
本県の 全国順位	H19	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	2位	3位	3位	11位	9位	7位	8位	2位	5位	3位	2位	11位



③本県の年代別自殺者数について

- 年代別自殺者数は「70歳代」が最も多い。
- 男女別に見ると、男性は「70歳代」が最も多く、女性は「40歳代」、「60歳代」が最も多い。
- 令和5年と比較して、男性は特に「70歳代」、「20歳代」が増加し、女性は特に「90歳以上」、「40歳代」が増加した。

■年代別・男女別自殺者数(令和6年)

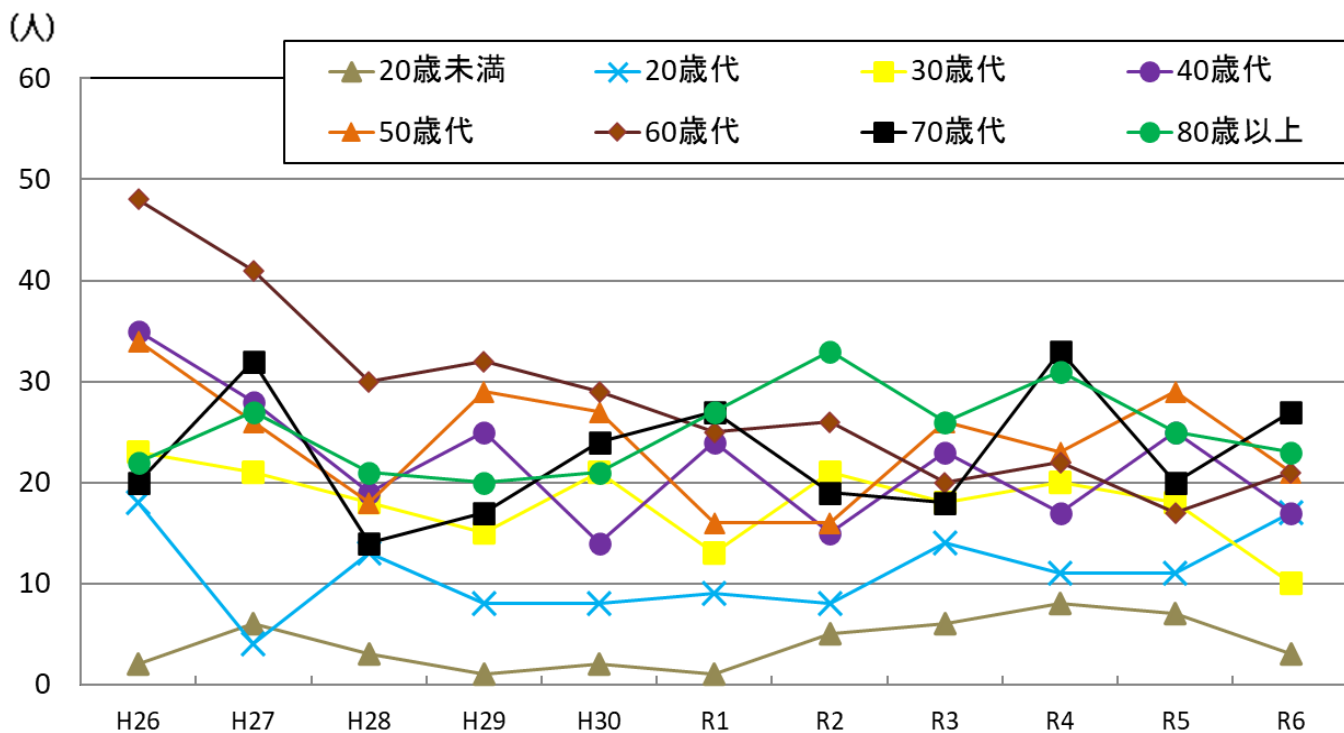


■年代別・男女別自殺者数(対前年(令和5年)比較)

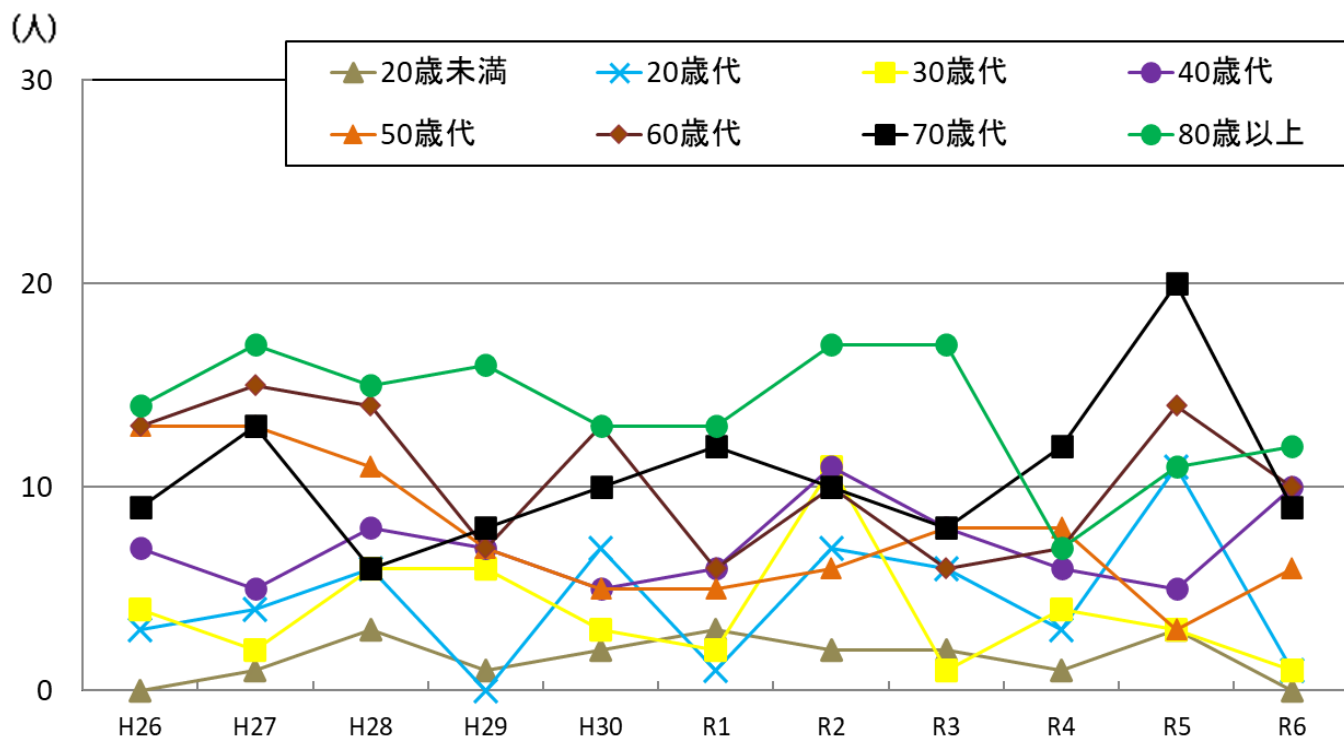
年齢(歳)	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～	全体
自殺者数(総数)	3	18	11	27	27	31	36	23	12	188
対前年比	▲7	▲4	▲10	▲3	▲5	0	▲4	▲10	+9	▲34
【内訳】(男)	3	17	10	17	21	21	27	17	6	139
対前年比	▲4	+6	▲8	▲8	▲8	+4	+7	▲5	+3	▲13
【内訳】(女)	0	1	1	10	6	10	9	6	6	49
対前年比	▲3	▲10	▲2	+5	+3	▲4	▲11	▲5	+6	▲21

【厚生労働省「人口動態統計(確定数)」より県作成】

■男性の年代別自殺者数の推移(平成27年～令和6年)



■女性の年代別自殺者数の推移(平成27年～令和6年)

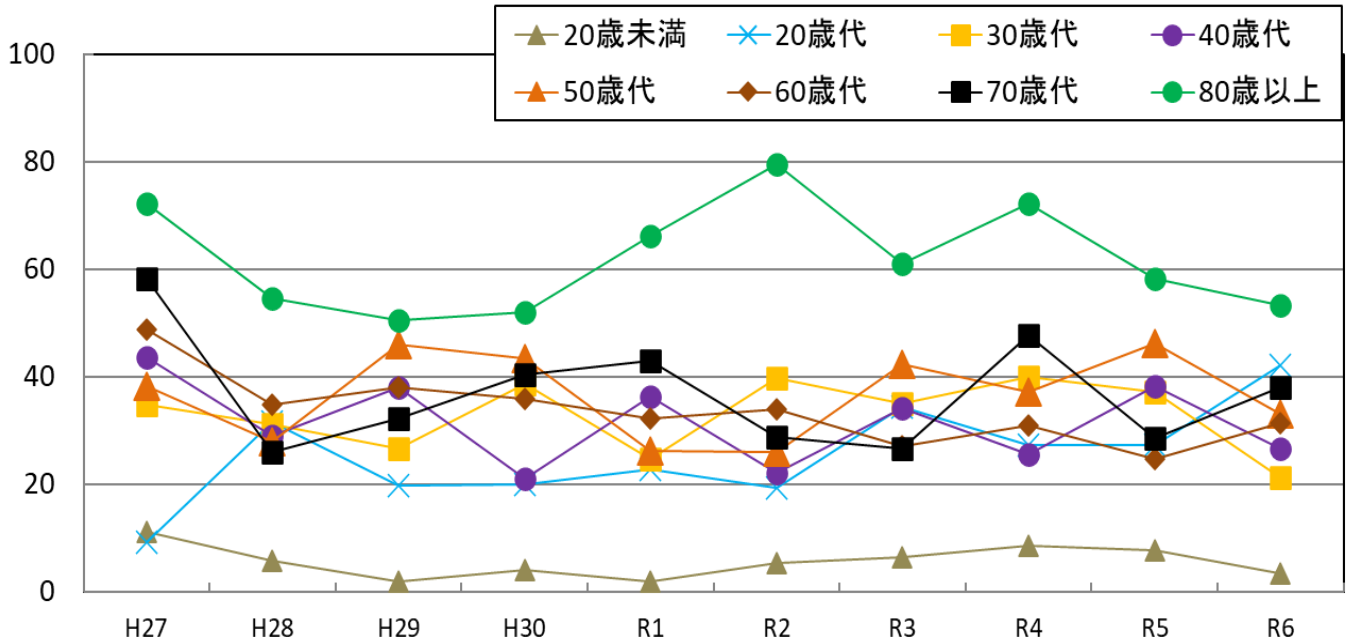


④本県の年代別自殺死亡率について

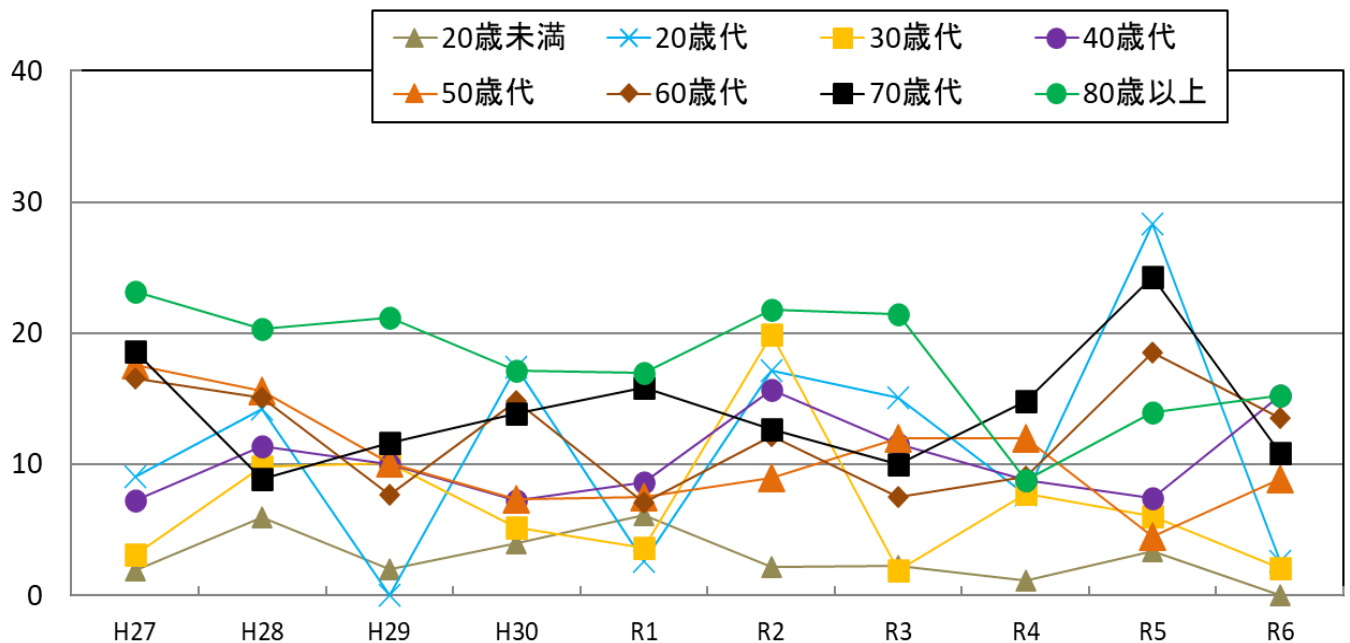
- 男性の自殺死亡率は令和5年と比較して減少しているが、「20歳代」、「60歳代」、「70歳代」が増加した。
- 女性の自殺死亡率は令和5年と比較して減少しているが、「40歳代」、「50歳代」、「80歳以上」が増加した。

注 各年10月1日現在の宮崎県の推計人口にて算出

■男性の年代別自殺死亡率の推移(平成27年～令和6年)



■女性の年代別自殺死亡率の推移(平成27年～令和6年)



⑤年代別主要死因別順位について

- 本県の年代別死因順位を見ると、10代から20代で自殺が死因の1位を占めている。
- 全体の主要死因順位では、自殺は全国、宮崎県ともに10位圏外である。

■全国の年代別主要死因別順位（令和6年）

年齢階級	1位	2位	3位
総数	悪性新生物	心疾患	老衰
10代	自殺	不慮の事故	悪性新生物
20代	自殺	不慮の事故	悪性新生物
30代	自殺	悪性新生物	心疾患
40代	悪性新生物	自殺	心疾患
50代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
80歳以上	老衰	悪性新生物	心疾患

■本県の年代別主要死因別順位（令和6年）

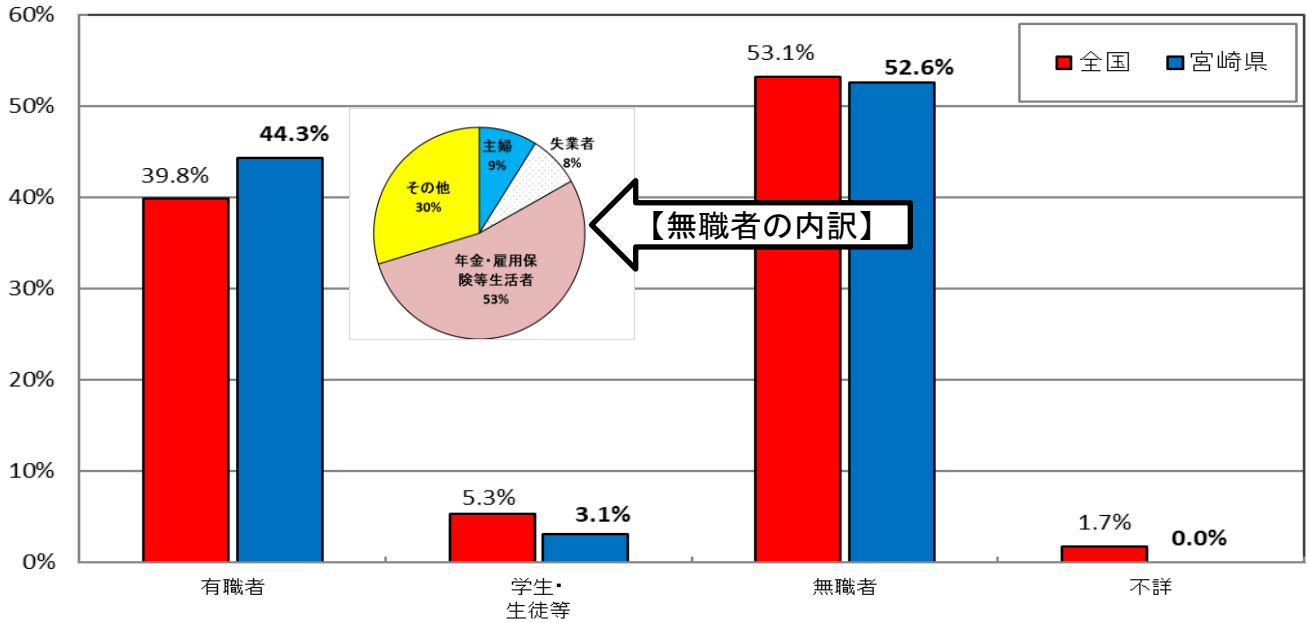
年齢階級	1位	2位	3位
総数	悪性新生物	心疾患	老衰
10代	自殺	悪性新生物・不慮の事故・心疾患	
20代	自殺	不慮の事故	悪性新生物
30代	悪性新生物	自殺	不慮の事故
40代	悪性新生物	自殺	脳血管疾患
50代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
80歳以上	心疾患	悪性新生物	老衰

⑥職業別自殺者数について

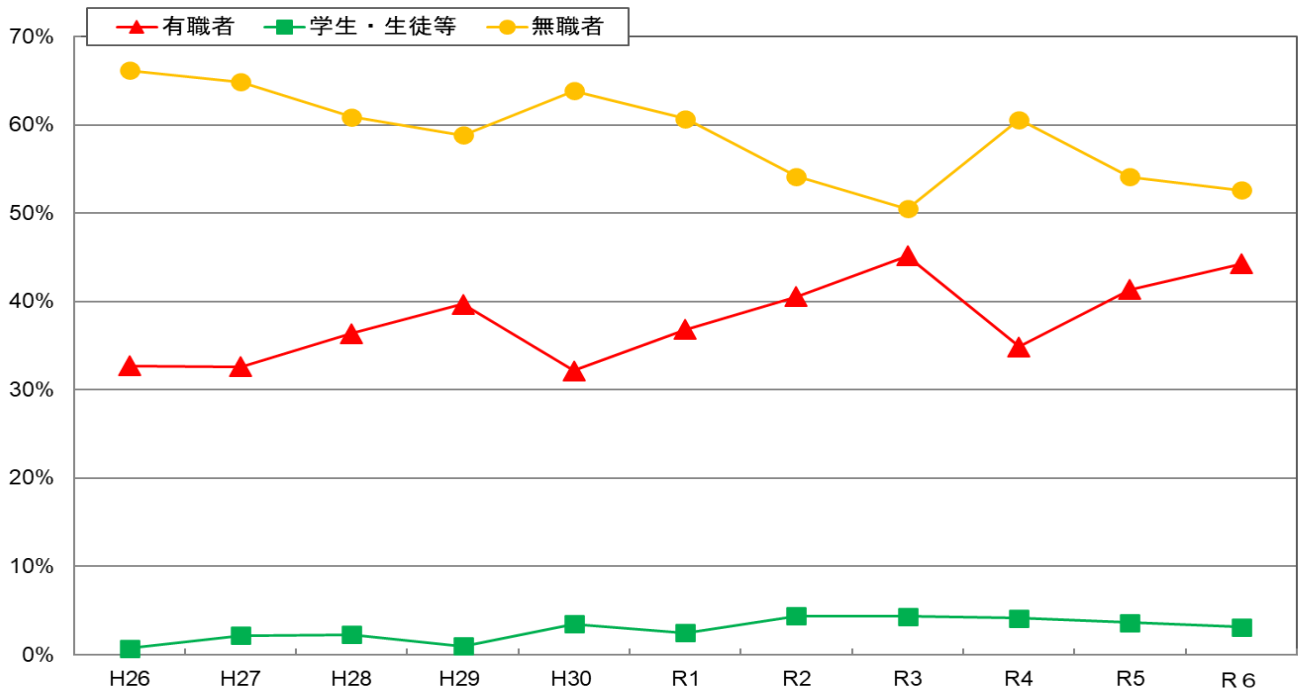
- 本県の職業別自殺者数の割合は、「無職者」、「有職者」、「学生・生徒等」の順に多く、全国の割合と比較すると、「有職者」の割合が高くなっている。
- 無職者の内訳を見ると、「年金・雇用保険等生活者」の割合が最も高い。
- 令和5年と比較して、「有職者」の割合が増加し、「無職者」の割合が減少した。

【参考】「年金・雇用保険等生活者」 R6年:54名(無職者全体:101名)、R5年:68名(無職者全体:119名)

■全国と本県の職業別自殺者数の割合(令和6年)



■本県の職業別自殺者数の割合の推移(平成26年～令和6年)



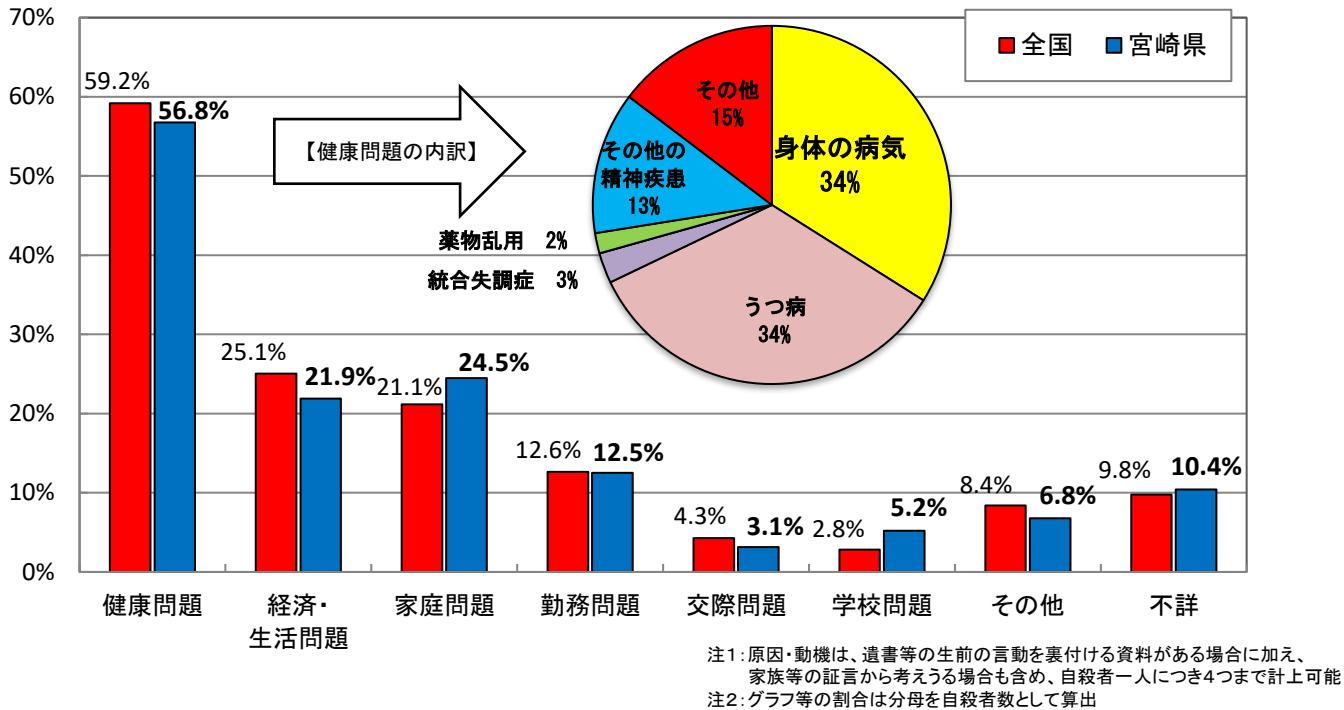
⑦原因・動機別自殺者数について

- 本県の原因・動機別自殺者数の割合は、「健康問題」が高く、その内訳を見ると、「うつ病」をはじめとする精神疾患が全体の約5割を占めている。

【参考】健康問題の計上数（R6年：109個（うち精神疾患関連：56個）、R5年：123個（うち精神疾患関連：62個））

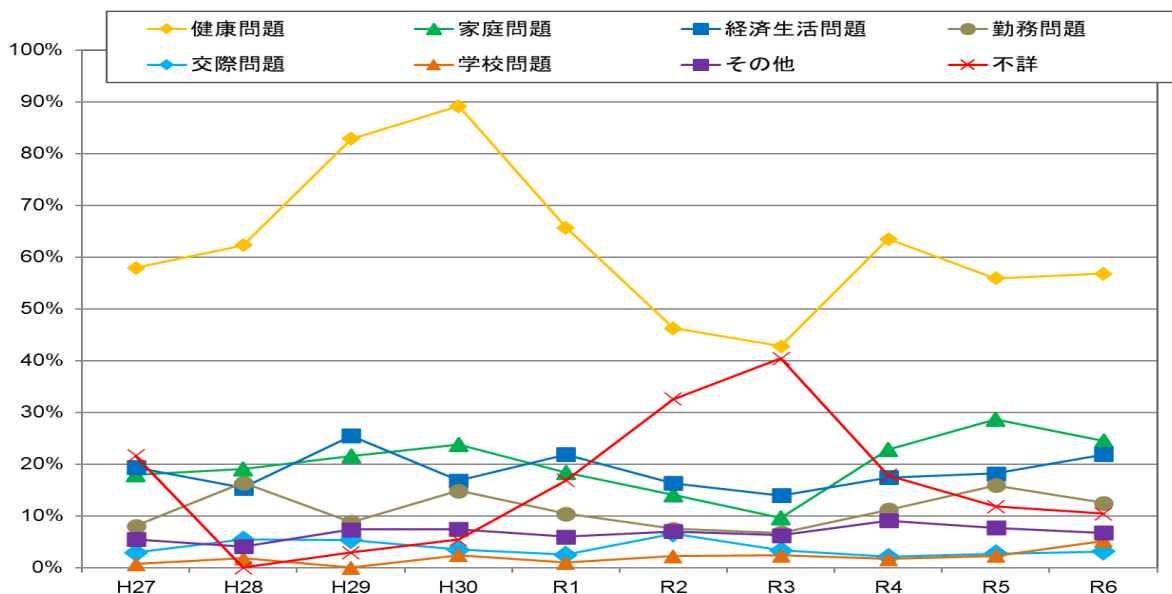
注：「自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている」ことに注意が必要

■全国と本県の原因・動機別自殺者数の割合（令和6年）



【警察庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計したものより県作成】

■本県の原因・動機別自殺者数の割合の推移（平成27年～令和6年）



注：原因・動機は、令和3年までは、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限り、自殺者一人につき3つまで計上可能であったが、令和4年からは、遺書等に加え家族等の証言から考える場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能と変更となっている。

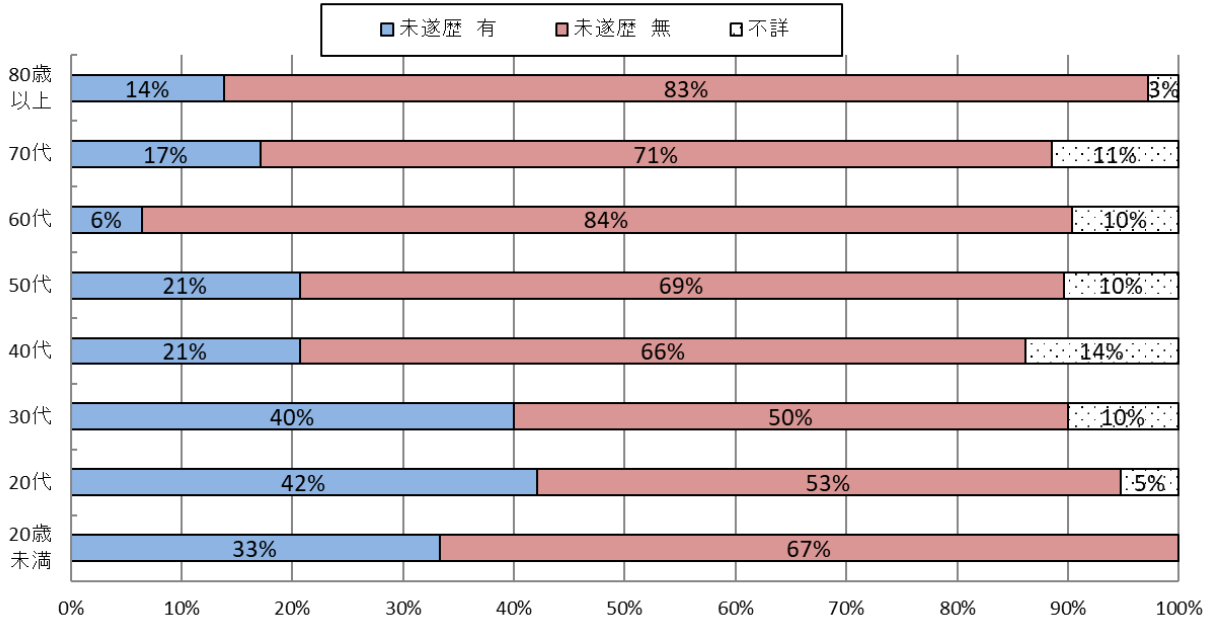
【警察庁「自殺統計」より県作成】

⑧自殺未遂歴有無等について

- 本県の自殺者の自殺未遂歴の有無を見ると、「未遂歴有」は、「20歳代」で最も高く、「60歳代」が最も低くなっている。
- 令和6年の「未遂歴有」の割合は約2割となっており、前年と同様の傾向であった。

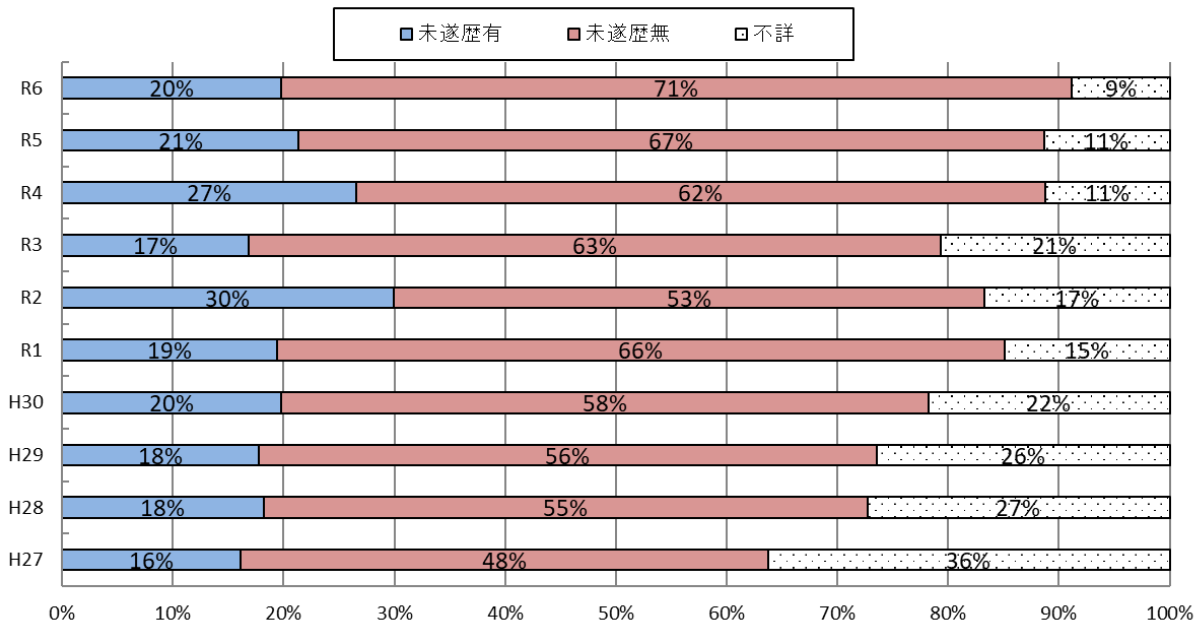
注：構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

■本県の自殺者の自殺未遂歴の有無（令和6年）



【警察庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計したものより県作成】

■本県の自殺者の自殺未遂歴の有無の推移（平成27年～令和6年）



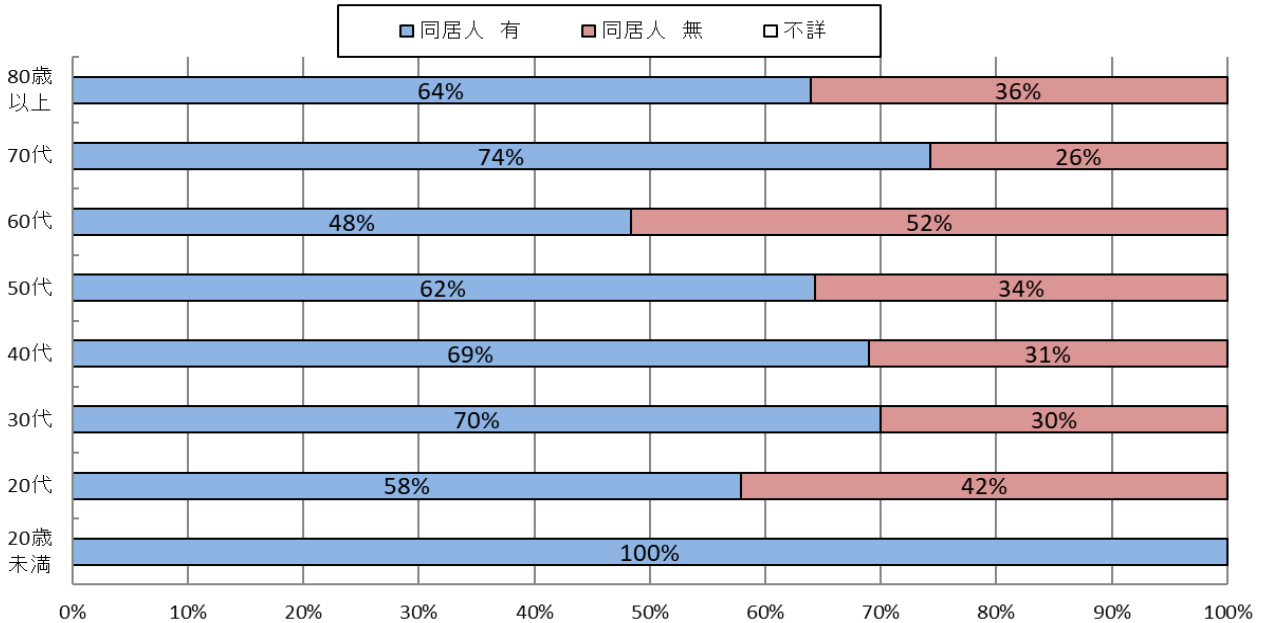
【警察庁「自殺統計」より県作成】

⑨自殺者の同居人の有無等について

- 本県の自殺者の同居人の有無を見ると、ほぼ全ての年代で、「同居人有」の割合が「同居人無」の割合を上回っている。
- 令和6年は、「同居人有」が約6割、「同居人無」が約4割となっている。

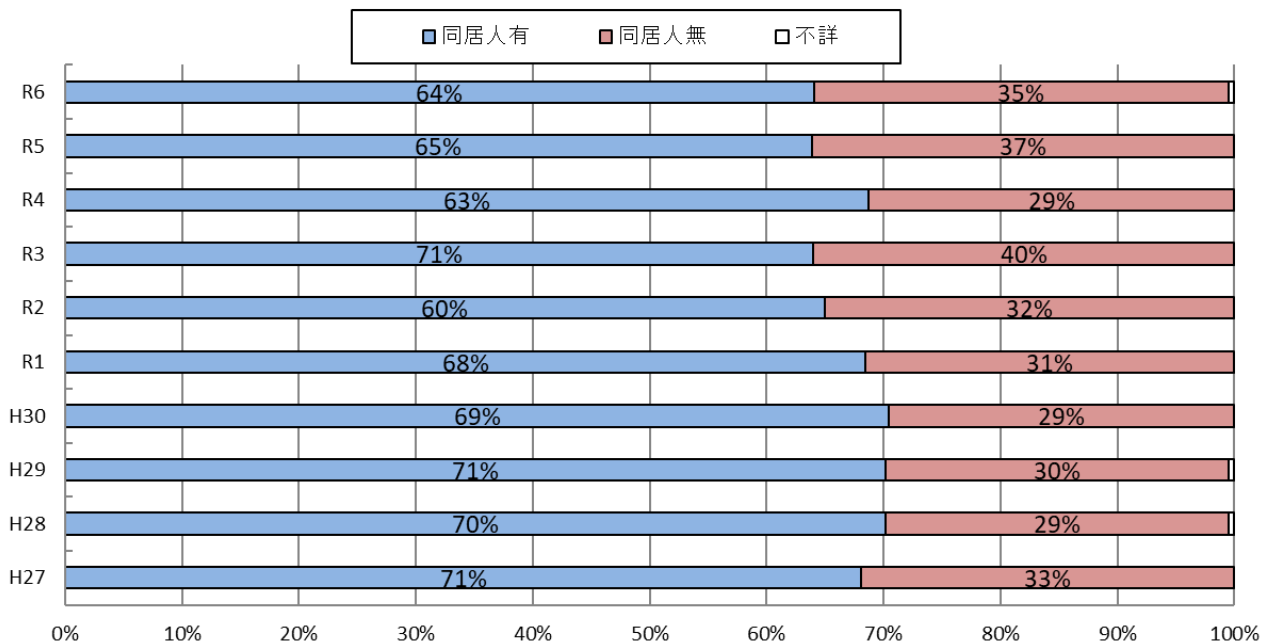
注：小数点以下は四捨五入により算出

■本県の自殺者の同居人の有無(令和6年)



【警察庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計したものより県作成】

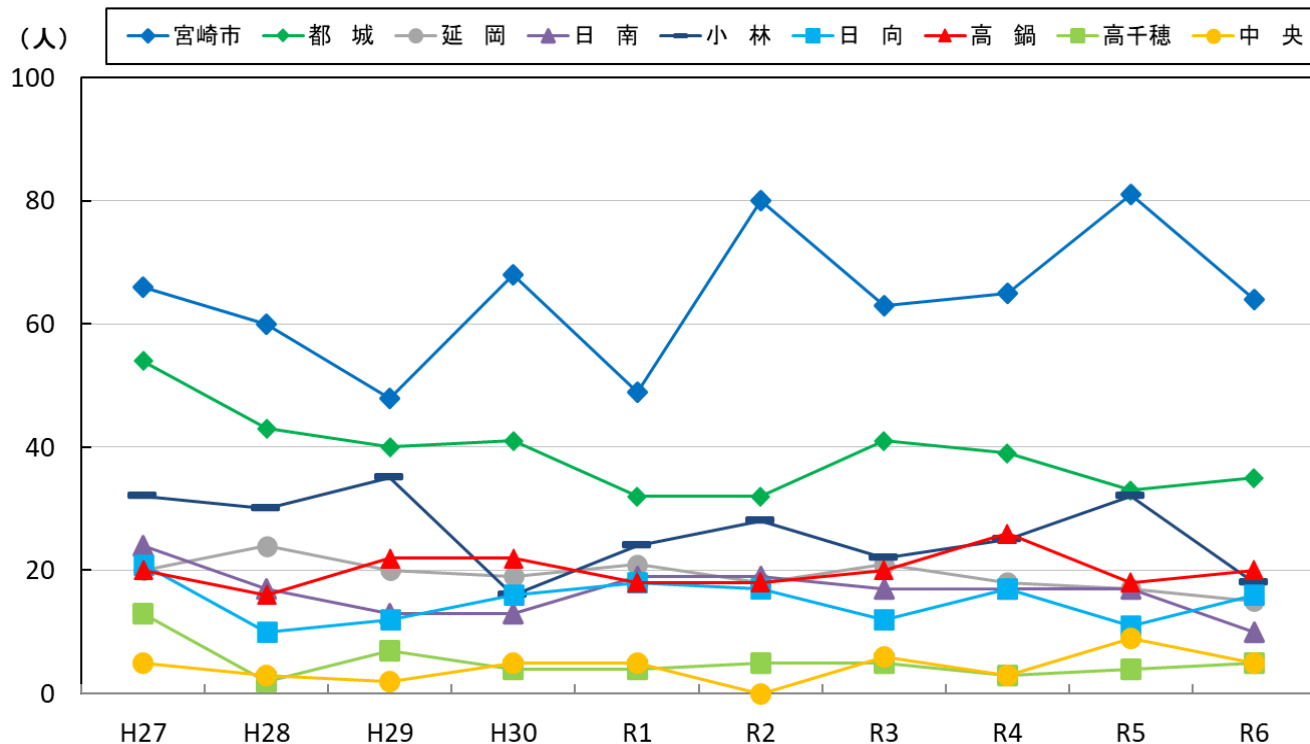
■本県の自殺者の同居人の有無の推移(平成27年～令和6年)



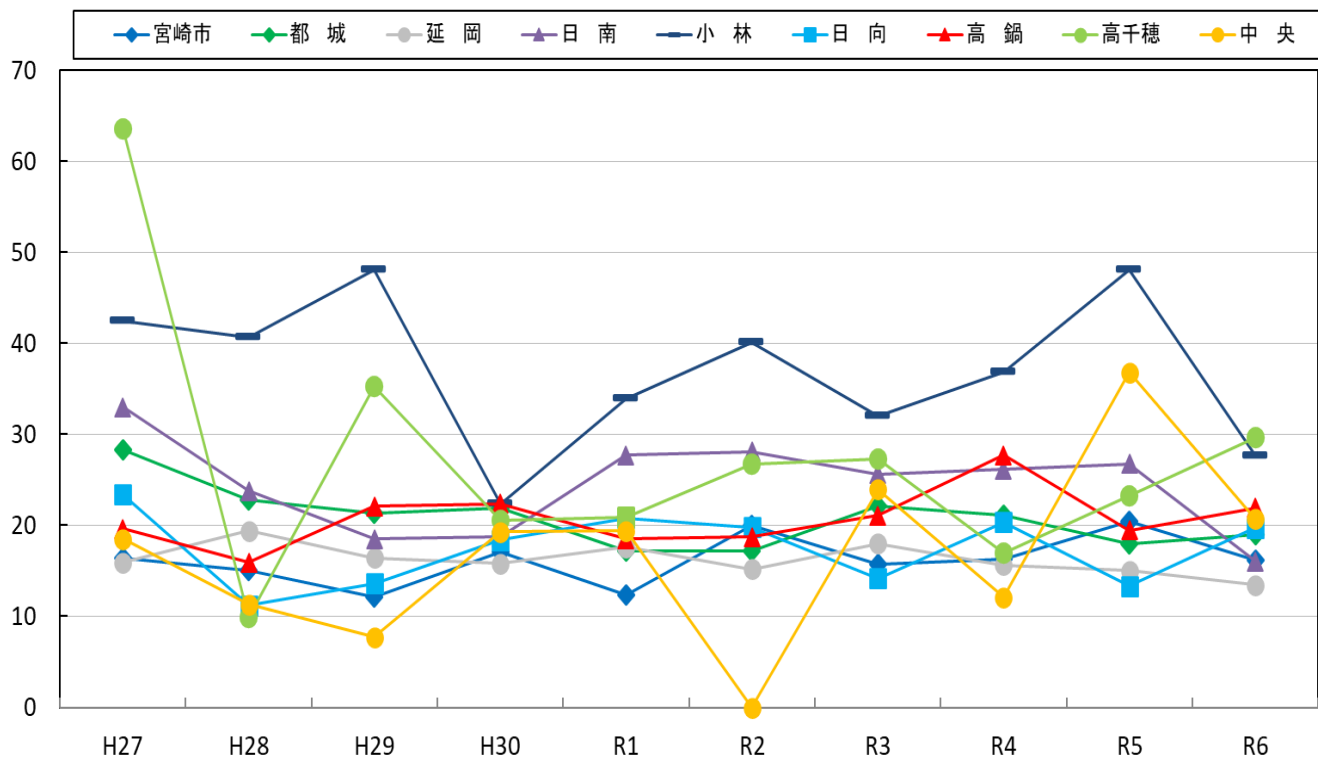
【警察庁「自殺統計」より県作成】

【参考】⑩各保健所圏域別の動向について

■各保健所圏域別の自殺者数の推移(平成26年～令和6年、人口動態統計(確定数))



■各保健所圏域別の自殺死亡率の推移(平成26年～令和6年)



【厚生労働省「人口動態統計(確定数)」より県作成】